

十文字学園女短大 増田 美子

1. 服飾変化の原因には種々あるが、異民族服飾との接触も、大きな要因の一つであろう。中国の服飾もたびたび周辺民族の服飾即ち胡服の影響を受けたと言われる。今回は、その最初とされる戦国時代の胡服とはいかなるものであり、中国服飾にどのような影響を与えたかを明らかにしたい。

2. 紀元前5世紀～3世紀頃のことであり、資料も限られたものであるが、主として、『史記』『礼記』『詩経』『論語』等を中心として、当時の作とされる木俑・土偶を補助資料とし、また少し時代が下るが蒙古ノインウラ出土の遺物を参考にして考究した。

3. 『史記』に、趙の武靈王が初めて胡服を採用したと記るされている。ところで、当時の中国人の服飾構成は、『詩経』等にも見られる通り、衣と裳と履であり、彼等の中にズボン状の袴と鞞はなかった。この武靈王の胡服採用により、初めて中国にズボン状の袴と鞞が入ったのである。武靈王当時の袴は胡族の用いていた氈もしくは裘製であり、鞞と同様に戦闘用として着用されたものであった。しかし、その実用性は大きく、次第に中国人の間に定着していった。漢代になると、ノインウラの遺物にも見られる通り、布帛製のものとなり、中国人男子の下衣として必要欠くべからざる存在となっていた。